[事案 2019-272] 新契約無効請求

・令和2年10月8日 和解成立

<事案の概要>

募集人らの誤説明を理由に、契約の取消しおよび既払込保険料の返還を求めて申立てのあったもの。

<申立人の主張>

平成29年10月に契約した一時払外貨建生存給付金付養老保険について、以下等の理由により、契約を取り消して、既払込保険料を返還してほしい。それが認められない場合には、保険期間を15年から10年に変更してほしい。

- (1)募集人らから、円貨で元本保証されると説明されたが、実際は違った。
- (2)生存給付金が年額19万円を下回る場合があるにもかかわらず、募集人らから説明がなかった。
- (3)保険期間10年を希望したにもかかわらず、募集人らに勝手に15年にされた。

<保険会社の主張>

以下等の理由により、申立人の請求に応じることはできない。

- (1)募集人らは、為替リスクについて説明しており、また、元本を保証するといった説明はしていない。
- (2)募集人らは、生存給付金の金額について、契約概要に沿って適切に説明している。
- (3)保険期間は、申立人自身が15年に設定している。

<裁定の概要>

1. 裁定手続

裁定審査会は、当事者から提出された書面にもとづく審理の他、契約時の状況等を把握するため、申立人ならびに募集人および募集人の上司に対して事情聴取を行った。

2. 裁定結果

上記手続の結果、募集人らの誤説明は認められないが、以下等の理由により、本件は和解により解決を図るのが相当であると判断し、和解案を当事者双方に提示し、その受諾を勧告したところ、同意が得られたので、手続を終了した。

- (1)満期受取金額の元本保証に関して、募集人の上司は的確な説明をしていたことが窺われたが、募集人の説明は的確性に欠けていたことが窺え、募集人も、自身の説明により申立人を誤解させてしまった可能性について否定しなかった。
- (2)保険期間について、申立人が10年を希望していたことは募集人も認めており、どのような経緯で15年になったか、募集人と募集人の上司の陳述に食い違いもあり、申立人が15年に納得して加入申込みをしたのか疑問が残る。
- (3)設計書には、申立人は「入院・手術などの保障」を要望したと記載されており、申込書には、「収入なし」とされているが、いずれも誤りであり、募集に際しては、意向把握や適合性には十分な配慮が求められ、こうした形式面での誤りも看過することはできない。